



ハイライト:

- ・ 第 26 回 JEA 総会報告
- ・ 日本キリスト教史における関東大震災
- ・ 青年宣教セミナー報告

福音宣教と隣人愛の実現に取り組む信仰共同体



第 11 代 JEA 理事長
安藤 能成

このたび理事長に選出されました安藤能成です。JEA 理事会には 2010 年度 1 年間だけ就かせていただいた者が、いきなり理事長の大任を仰せつかったことには、私自身、力の足りなさを認めざるを得ません。しかし共に理事会を形成してくださる理事の方々の豊富な賜物と経験が備えられていますので不安を覚えることはありません。何よりも私たちの上には、すべての主権をもっておられる主なるイエス・キリストがいてくださいますから。

2011 年は東日本大震災という未曾有の出来事が発生し、各団体共にその対応に終始して来られたことと思います。その只中で JEA 総会が開かれ、プログラムも被災された方々、救援、支援の働きを進めていらっしゃる方々の証言が中心を占めました。それは単なるひとときのプログラムではなく、参加者全員に震災の実態と、そこに生きる人々の厳しい現実、そして悲しみと苦しみの中にも生きておられる主のお姿を見せていただけた、とても有意義な時間でした。また、これからの復旧、復興支援の在り方について大きな示唆が与えられたときでもありました。

証言された先生方の中には、悲惨な実情を語りながらもユーモアを交え、聴

く私たちに笑いを起こさせてくださった方もいらっしゃいました。私にはそれが、被災していない者たちに対する、憐れみに満ちた愛の配慮であったと感じられました。本当は私たちの方が先生方を慰め、励ます立場であるはずが、逆に被災地の先生方の言葉で私たちが励まされたように感じたのです。被災地で、活きた隣人愛を実践していればこそその姿を見させていただいた思いでした。

さて、物事には一つの団体でできること、またしなければならぬことがあります。しかし一つでの団体ではできないけれども、皆で力を合わせればできることも必ずあります。

日本福音同盟という私たちの団体は、単なる友好団体ではなく、信仰と愛によって共同作業をする主イエス・キリストの信仰共同体的集団であると思います。今回の震災によって、その実質的な内容を具体的に実現する「時」が来たということなのではないでしょうか。そしてこの「時」は人の手の管理の中にあるのではなく、神の御手の中にありますから、私たち人間の都合とか猶予とかはゆるされておりません。

福音宣教の急務は今までも口にされてきました。隣人愛の実現も唱えられていました。しかし私たち日本の教会はそのことについてどれだけ真剣に取り組んできたのかということ問われているのかも知れません。主の御助けを仰ぎみながら共に取り組んでまいりましょう。

今回の総会には韓国基督教総連合会 (CCK) からお二人のお客様が来られ、

目次

《巻頭言》	1
JEA 活動報告 第 26 回総会報告	2
流れのほとり 東日本大震災に思う	3-4
日本キリスト教史における 関東大震災	5
青年宣教セミナー報告 青年伝道会議計画	6 7
震災対策室報告 総務局報告	8

JEA 活動報告

第 26 回 JEA 総会報告

2011 年 6 月 6 日（月）～ 8 日（水）、静岡県掛川市にある「ヤマハリゾート・つま恋」にて、第 26 回 JEA 総会が開催された。2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の被災地から 5 名の牧師たち（田中時雄師 [聖協団]、吉田隆師 [改革派]、佐藤彰師 [保守バプ]、近藤愛哉師 [保守バプ]、住吉英治師 [同盟基督]）を招き、その証言とメッセージを聴き、ともに祈ることが今回の総会のメインプログラムであった。二日目のグループ懇談では、第 5 回日本伝道会議 (JCE5) のテーマ「危機の時代における宣教協力」に基づき、「新たな危機の中で、宣教協力をどのように進めていくのか」について話し合うときをもった。

また昨年の総会で改正された新しい規約による初めての理事選挙が行われ、3 年任期の新理事会が発足し、理事長に安藤能成（同盟基督）が選出された。4 月から新総主事として品川謙一（キリスト合同）が就任したことが報告された。韓国基督教総連合会 (CCK) からは 2 名の代表者が参加し、震災救援のための支援金の受け渡しが行われた。

今総会においては 3 回の議事会が行われ、2010 年度の報告と 2011 年度の活動計画が審議され決議された。

1. 東日本大震災からの救援・復興に向けた取り組み

- (1) JEA 東日本大震災対策室（室長：中台孝雄）を 3 月 25 日に設置。
- (2) 以下の 3 つの流れを柱として救援・復興活動を進める
 - ①各教団・教派による活動
 - ②超教派での活動
 - ③各救援団体などによる活動
- (3) 上記 3 つの流れが互いに連携・協力できるよう助ける。
- (4) ②の超教派での救援・復興活動において、JEMA との協力関係の中で、クラッシュ・ジャパンと連携し、ボランティア活動を進める。

- (5) 安全かつ効果的な救援・復興活動を支援するため、③の諸団体とともにボランティア・トレーニング・セミナーなどを開催する。
- (6) 援助協力委員会が国内外からの支援金を適切に管理する。震災対策室が被災教会の情報を集約し、見舞金などの分配を行う。

2. 第 6 回日本伝道会議 (JCE6) に向けて

2011 年度は、7 月に「2011 宣教フォーラム青森」が、10 月末に「宣教フォーラム秋田」がそれぞれ開催される。理事会のもとに JCE 準備室が中心となって JCE6 の開催候補地との交渉・準備が進められている。テーマ、理念について各専門委員会に提言をお願いしている。

3. 第 1 回日本青年伝道会議の準備

JCE5 の青年プロジェクトの思いを引き継ぎ、JEA 青年委員会で準備が進められている。2012 年 9 月 17 日～ 19 日に東京近郊で開催予定。

4. 専門委員の任期について規約改正

各専門委員の任期を 1 期 2 年、連続 3 期までとする規約改正を行った。

5. 2011 年度の JEA 新体制

2011 年度の理事会構成・役割分担は次のように決定された。

理事長：安藤能成（同盟基督）
 副理事長：中台孝雄（長老教会）
 佐々木望（バプ教会連合）
 正書記：田中進（IGM）
 副書記：小平牧生（基督兄弟団）
 正会計：細井眞（アッセンブリー）
 副会計：鎌野善三（イエス・キリスト）
 神学委員会担当：内藤達朗（ホーリネス）
 宣教委員会担当：大井満（キリスト合同）
 社会委員会担当：八尋勝（JECA）
 援助協力委員会担当：佐々木望
 女性委員会担当：金本悟（神の教会）
 青年委員会担当：畑野順一（フリーメソ）
 日本伝道会議準備室担当：小平牧生



CCK 代表者、総会講師と新旧理事長



二日目朝のメッセージを語られた佐藤彰師



3 年任期の新理事会が発足した



6 月 27 日に開催された
心のケア・カウンセラー養成セミナー



7 月 18 日～ 19 日に開催された
2011 宣教フォーラム青森
約 100 名が参加した

流れのほとりて

「悲しみがくれた信仰の飛躍」

JEA 女性委員会 前担当理事 渡邊昌彦

ヨハネの福音書11: 17～37

イエスがベタニヤのマルタ、マリヤの家においでになった時のことを覚えておられるでしょうか。あの時マルタは、イエスをもてなすために忙しく動き回り、イエスの膝元に座ってみことばに聞く妹マリヤを責めました。そして、イエスに「マリヤは良い方を選んだ」との評価を受けています（ルカ10: 38～40）。

この場面でのマルタはイエスとどのように関わっているでしょうか。弟ラザロの死を嘆いてはいますが、冷静に話し合えないほど取り乱してはいません。マルタの信仰は成長しているように思われます。一方マリヤは悲しみに打ちひしがれていたのです。ここでは何も教える事はないようでした。この箇所からマルタへの理解を深めたいと思います。

*新しい信仰に進んでいます。

「今でも私は知っています」の言葉から、彼女の信仰が著しい飛躍をしたように思います。悲しみが、イエスに対する信仰を飛躍させるための機会となったことを知ることができます。

*新しく真理に導かれています。

イエスは、今まで知らなかった事柄をマルタに語っています。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか」と。イエスは悲しみを通して、より深い真理に導いてくださいました。

*イエスご自身を親しく理解しています。

「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストであると信じております」。これは、新たな告白です。悲しみは、マルタに信仰をよりイエスに信頼するようにしています。私たちも、人生の中で出会う悲しみを通して、死と葬りと復活の意味を深く理解し、信仰の成長を遂げる者となりましょう。

《サンデーランチ》

私は30年前にドイツから来たOMFの宣教師、ドロテア・ランハンスです。日本で働いているOMFの宣教師は14カ国から来ているので、いろいろな国のごちそうを食べる機会があります。その中からうちの名物になっているオーストラリアの「手作りアイスクリーム」とイギリスの「残り物パイ」を紹介します。

♥手作りアイスクリーム

【材料】卵3コ 砂糖 100g、バニラエッセンス 少々、ホイップクリーム 200g

【作り方】

① 卵の白身をハンドミキサーで固くなるまで泡立て、砂糖を3～4回に分けて混ぜ合わせる。② ホイップクリームを半分の固さにホイップして、卵の黄身とバニラエッセンスを混ぜる。③ ①と②を泡立て器で軽く混ぜ合わせる。④ タッパーなどフタのあるものに入れて半日くらい冷凍する。

❖少し砂糖をかけたイチゴやブルーベリー（解凍したものでもよい）と一緒に食べるとさらにおいしい!



♥残り物のパイ

いつでも家にあるもので簡単に作れる

【材料】

夕飯などの残りもの、または冷蔵庫にあるもので作ります。

肉類）ソーセージ、ハム、ベーコン、ハンバーグやシーチキンなど

野菜）タマネギ、マッシュルーム、アスパラガス、コーン、ピーマンなど（生なら茹でたり炒めたりして火を通す）

ピザ用チーズ 1カップ、卵 2コ、牛乳 1カップ、塩 小さじ 1/3、こしょう 少々、小麦粉 大さじ2

【作り方】

① 肉類、野菜を適当に切って、マーガリンをぬったパイ皿に並べ、上にチーズをかける。② 卵、牛乳、塩、こしょう、小麦粉をよく混ぜて、①の上にかける。③ 30分間ねかせる。④ 180℃のオーブンで35～40分焼いて、出来上がり。



いのちのパン

梅田登志枝

それからイエスは出て、いつものようにオリブ山に行かれ、弟子たちも従った。

（ルカ二二章三九節）

主イエス様は苦難と屈辱に満ちた十字架刑の前に「いつものように」祈られ「いつものように」父なる神様との交わりを慕われました。弟子を選ぶ前にも、大きな奇跡を行った後にも、主イエス様は生涯をかけてそれを実践なさいました。

私たちの人生には「いつものように」ではない時があります。「いつも」を壊すさまざまな問題課題が襲ってくることもあるでしょう。悲しみ、喪失、絶望、怒りで心も体もギリギリの状態になってしまったとしても、そこから少しずつ「いつものように」主に目を向けたいものです。

私たちお互いは「いつものように」という時と場所をもっているでしょうか。非常事態に試されるのは「いつも」の在り方なのかもしれません。たとえ私たちがどんな状況に置かれても神様は「いつものように」愛と慈しみをもって私たちを見守ってくださることは何という慰めでしょうか。

8. 今日における女性の位置づけ

マーティンは次のように述べています。

「女性は、少なくとも神学的には男性と同等の立場を与えられています。(しかし) 実際面においてはそうではありません。……神の目にはあなたがたは同等ですが、人の目にはそうではありません。」

多くの教会において、女性の立場に大きな変化がないばかりでなく、しばしば、女性が男性より下の立場に置かれるようにする意識的な努力さえ見られます。ビレズキアンは、ある人々は男性が女性に対して権威を持たなければならないという先入観を支持するために、神のご性質に関して異端的な見方さえすると主張しています。「三位一体の神の位格における上下関係：再登場する異端」というテーマの講義の中からの抜粋によると：

「三位一体の神の位格における永遠の上下関係を主張する異端の教えは、AD325年に世界司教会議で明確に排斥されまし

た。しかし、アレクサンドリアのアリウスは、司教たちに公然と反論し、父なる神だけが永遠であり、子なる神は父なる神と同等であるという教えを否定しました。

この従属性は、時代を通じてときおり表面化してきます。この教えが、今日、女性の位置づけと関連して再登場してきたのは重大なことです。父なる神と子なる神の間に、永遠にわたる権威と従順の関係があるという考えは、男性と女性の間にもそのような永遠にわたる権威と従順の関係があるという考えに至ります。なぜなら、人は神のかたちに創造されたからです。上下関係は神の中に基盤を持つことになります。」

男性優位に固執する人々に対する応答として、W. ワード・ギャスクは「女性の位置づけについて伝統的な立場を取る人たちが当然だと思っているほど聖書の証言は明確ではありません」と言い、更に、世の中にはいろいろな役割や機能がありますが、「聖書を用いて女性を……男性より低い……とするのは、神のこ

とばの最も歪んだ用い方です」と言っています。

C. 偏見に対する疑問の投げ掛け

「偏見の無い人は一人もいない」という宣言は、私たちには真理を見ることは期待できないということを示しているかもしれません。幸い、その偏見に対して疑問を投げ掛けることができます。

偏見に対して疑問を投げ掛けるために取る方法は、質問を投げ掛け、別の視点から見る努力をし、私たちの思い込みは真理に基づいているというよりも、だれかの偏見に基づいているかもしれないという可能性を残すことです。

伝統の役割とは何か、文化に対して過去においてはどのような譲歩がなされて来たか。今日、文化に対してどのような譲歩をしているか、文化は教会に情報を与えているか、それともその逆か、などという問いをすることができます。

これらの問いに対する答えはどの程度文化によって決定され、どの程度聖書によって決定されているのでしょうか。

東日本大震災に思うこと

救世軍東京東海道連隊本部 藤井千明

3月15日(火)、福島県白河市を訪れたのが最初に関わった救援活動でした。前日には、錦糸町にある救世軍東京東海道連隊本部に、22名のボランティアが集合し、救援物資の袋詰め500セットの作業、及びアルファ米のお弁当約500食を作り保冷コンテナに詰め込みました。警察署の緊急車両指定をやっと出発前に受け取り、高速道路を走ることが出来たものの、まだ寒い時期で、チェーンを備え、ガソリンの残量を計算しながら、車3台、



7名での移動でした。受け入れ先の保管場所に積荷を下ろした後、「被曝量測定会場」という看板が、県南保険福祉事務所の入り口に掲げられてあるのを見つけ、「なぜ今こんな時にわざわざ広島から……?」と不思議に思いました。と同時に、福島第一原子力発電所の事故で非難してくる人々をさすのだと理解しました。私の身内のほとんどがこの町近辺で生活しており、早く無事に全員が脱出してほしいという願いと、広島、長崎で起こった惨状を、歴史は繰り返

してしまったのだと、重い気持ちに押しつぶされてしまいました。

6月21日、義妹とともに実家のある双葉町に一時帰宅をしました。全ての工



程を経て最後のテーブルに案内され、首から提げていた線量計が外されました。その数値が書き込まれた報告書を、「今回の立ち入りで受けた放射線量は、8マイクロシーベルト、スクリーニングの結果問題ありませんでした」と、放射線被ばくの早見図とともに受け取りました。私はその値について質問をしたのですが、係りの人は不明瞭な返答を慌てて返してきました。的を得た回答ではなかったので再度質問すると表情が曇り明らかにストレスを感じているようでした。質問を苦情と感じる程にうろたえるこの人を前に、もう諦めようと思い会釈をして立ち上がりましたが、隣にいた係の人が代わりに即答をしてくれました。

震災に遭われた方々はもちろんのこと、様々な立場で対応に苦慮する方々の、心労がよくケアされることを願って止みません。復興という明るい兆しが、立場を分けていても双方のものであり、現実の喜びとなる日を心から祈ります。



日本キリスト教史における関東大震災

JEA 神学委員長 山口陽一

2011年7月9日に「関東大震災を宗教者はどう受け止めたか」というシンポジウムが行われました（日本クリスチャン・アカデミー主催）。関東大震災を当時のキリスト者がどう受け止めたのか、また日本キリスト教史に震災が与えた影響についての研究会です。立教大学名誉教授の鈴木範久氏が内村鑑三、日本キリスト教会の五十嵐喜和氏が植村正久、日本基督教団の戒能信生氏が賀川豊彦、私が柏木義円について発題しました。ここでは各発題の概要を報告いたします。

1. 天譴論

関東大震災の被害は、死者10万5千名余、家屋全半壊15万9千戸、焼失21万2千戸に及びました。東京と横浜に集中する教会や関連施設の被害は甚大で、焼失・大破は70余におよびました。日本基督教会の富士見町教会、海岸教会、指路教会、東京神学社、フェリス女学校、共立女学校。日本組合基督教会の弓町本郷教会。メソヂストの中央会堂、銀座教会、青山学院。聖公会の築地三一大聖堂、横浜聖アンデレ、聖路加病院、立教学院、立教女学院。バプテストの中央教会、関東学院。カトリックの関口聖母天主堂、聖心女子学院。救世軍本営、救世軍病院。ハリストス正教会東京復活大聖堂（ニコライ堂）、そして教文館や警醒社などです。

首都を直撃した未曾有の大災害を当時の人々は「天譴（けん）」と受けとめました。被災者が天罰を受けたということではありません。第一次世界大戦の惨禍を尻目に大戦景気に酔いしれる成金、暴利をむさぼる悪徳商人、政争に明け暮れる政治家などに鉄槌が下ったというものから、相次ぐ戦勝で日本人全体が傲慢になっていたとするもの、大正デモクラシーの風潮を槍玉にあげるものもありました。「天譴」とは、奈良・平安時代以来の儒教思想に基づく「為政者に対する天の譴責」でしたが、関東大震災後のそれは「浮かれすぎ、墮落した人々を懲らしめ、あるいは目をさませんがために天が地震を起こした」と社会を戒める説に変わったと言われます。この度の震災に際して、石原都知事が「津波で日本人の我欲を洗い流せ」と発言して批判されました。被災者への無配慮と政治的意図、良からぬ精神主義のゆえでしょうが、時代の変化も感じさせられます。

天譴論をもって受けとめられた関東大震災は政治にも影響を及ぼし、1923年11月10日の「国民精神作興ニ関スル詔書」となります。贅沢や危険思想を排除し、質実剛健の気風を発揮させようとする精神主義は8年後のアジア太平洋戦争にも引き継がれます。また11月14日に日本基督教連盟が成立し、18年後の日本基督教団を準備することになります。

2. 神の業の顕れるため

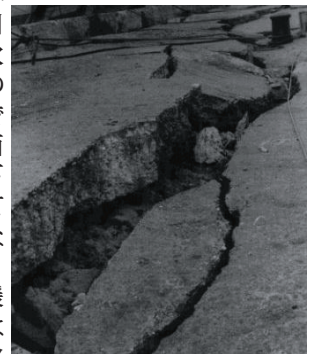
内村鑑三は濃尾地震（1891年）に際し、1755年のリスボン大地震が慈善家ハワードを生んだことを例に、一万の犠牲者の死を「義人の死」とするための生き方を語りました。事実、濃尾地震は当地における伝道を促進したばかりでなく、石井亮一による滝乃川学園創設の契機となり、石井十次の岡山孤児院は被災孤児を迎えて拡大されます。

32年後、軽井沢で関東大震災に遭遇した内村鑑三は言います。「東京市民の靈魂は、其の財産と肉体が減びる前にすでに滅んでいたのです。斯かる市民に斯かる天災が臨んで、それが天譴又は天罰として感ぜられるのは当然でありま

す」。内村の天譴論の背景には愛弟子の離反、すなわち有島武郎の心中（同年6月9日）と小山内薫の「背教者」（同年『朝日新聞』掲載）があったとされます。

しかし、富士見町教会と東京神学社を失い、日本基督教会の再建にあたる植村正久は「神の業の顕れんためなり」を強調して言います。「苦痛の原因調べは終局がない。議論何時はつべきも見えぬ。しかし、其の処に一つ最も明白なことがある。禍害は神の業の現れる機会を与える。それが禍害の世に存するひとつの理由であろうと思われる」。

この傾向をさらに強く帯び、教会の枠を越えて被災者の支援活動にあたったのが賀川豊彦でした。九月四日にはいち早く神戸から東京に入り、その後活動の拠点を東京に移します。10月13日の「暴力の無能」では、流言飛語と自警団を批判し、翌年2月の『苦難に対する態度』では天譴論に疑義を呈します。「東京、横浜の災害が、彼地商人の墮落、貴族社会の為めなりとして之を当然の報酬とする事は、とんでもない誤謬であることを知らねばならない。事実そうした批判をすることは人間の職分ではない。神のみの判断し給ふ処である」。賀川はヨブ記から学ぶこの書物で次のように結論します。「人間の仕事は、互助であって断案ではない。我等は人の苦難に面する時、之に対して断案を下す前に、まづ最善の努力をして苦難の排除にあたらねばならない」。賀川は、「ボランチャヤー」と呼ばれた若者たちと共に救援と伝道に邁進し、その理念は十年後の「神の国運動」に継続されて行きます。



3. 天を畏れよ

震災に伴い六千人の朝鮮人が虐殺され、他にも人権弾圧が相次ぎました。これらの人災を厳しく批判したのが柏木義円です。柏木義円は、『上毛新聞』299号（大正12年10月15日）の巻頭言「天を畏れよ」において、シロアの塔が倒れた記事（ルカ13章4節）、ソドムに対するアブラハムの執り成し（創世記）に触れながら、神の警告として震災を受け止めます。そして孔子の「民信なくば立たず」を引いて結論します。「信の本は神を畏るゝの宗教である。沙上の家は一震して倒壊した。復興の東京は其人心を不動の基礎の上に置かねばならぬ。最後に此厳かなる天譴を受け乍ら此変災に随伴して多くの罪惡が行はれたのは深く哀しむ可きことである、特に変災に乗じて弱者を惨殺したる国民は噫禍なる哉。」

震災に伴い弱者を惨殺した罪惡とは、朝鮮人虐殺と甘粕憲兵大尉の大杉栄虐殺事件です。柏木はそこに顕れた軍人精神の非人間性と、震災に乗じて勢力拡張を図る軍部を批判しました。今日であれば住民の犠牲を厭わない原子力開発や、大阪府議会の「君が代起立条例」などを痛烈に批判したことでしょう。主を恐れ、人を尊ぶその視点は現代にも通用するものです。（各発題の全文は『福音と世界』に掲載される予定です。また次回の神学委員会では原子力発電を神学的に検討することになっています。）

聖書的世界観の継承

2011 年度 JEA 青年宣教セミナー 報告

開会礼拝メッセージ

「青年の『人生観』に、キリストによる礎を」

(エズラ記 3 章 11 節～12 節)
キリスト者学生会 (KGK) 総主事 山崎龍一

「最近の若者はなんだ。目上の者を尊敬せず、親には反抗。法律は無視。妄想に耽って街で暴れる。道徳心のかげらもない。このままだとどうなる。」これはギリシア時代の言葉ですが、若い人に対する大人の普遍的な印象なのかもしれません。しかし教会に集う大人はこれらの言葉を繰り返すのではなく、青年にキリスト教信仰による人生観をしっかりと築くために仕えることが使命です。青年の人生観に大きく影響する恋愛、結婚、就職などに関して、彼らが「教会にはモデルがない」と語ることが多くあります。その言葉が、大人たちの日常生活の価値観が信仰者の価値観として彼らに理解されず、「この世」の価値観に生きているキリスト者の大人への痛烈な言葉であることに気がつくことから、教会における青少年教育はスタートする必要があるでしょう。

青年期は人生の重要な決定をする直前を生き、人生観の基礎を作り上げる大切な時期です。しかし彼らを取り巻く環境は、圧倒的な自己実現という価値観の世界です。その中を生きている彼らに対し、神に従うことが最も幸福なのだと語ることができるのは、教会の大人であるはずで

す。残念ながら現代社会で青年が「大人の話」に耳を傾けるのは、実は教会ではなく「職場」となっています。教会には本来、誕生、結婚、死、悲しみ、病、喜び（信仰でなければ喜べないもの）があり、それらに直面した者が、生涯をかけて人生の主権が神にある

ことを知り、そこ深い慰めを見いだす場所です。そして、その慰めをもって神と人を愛し仕え、家族を愛し、仕事をする…その歩み全体を支えているのがみことばと交わりであり、そこに教会生活があります。

「しかし、祭司、レビ人、一族のかしらたちのうち、最初に宮をみたことのある多くの老人たちは、彼らの目の前でこの宮の基が据えられたとき、大声をあげて泣いた。一方、ほかの多くの人々は喜びにあふれて声を張り上げた。」老人たちの深い喜びは、深い悔改めの涙と結びついたものでした。涙と共にある希望を語る人生観に触れることが青年にとって決定的に貴重な経験となります。

バビロン捕囚によって、約束も希望も途切れたかのような絶望感の中で、「主はいつくしみ深い」と告白できるまでの苦悩と信仰の回復は、信仰による経験の深みとも言えます。その回復と希望を世代を越えて分かち合い、神を賛美するとき、私たちは青年と共に教会を建て上げて行く歩みへと導かれていくことになります。青年が教会にいないと言われますが、ある日突然いなくなったのではありません。何人いれば「青年がいること」になるのでしょうか。見えるところに抛らず、時間をかけて青年を育てるために問われているのは、私たち大人の信仰に立脚した人生観なのです。



主題講演「聖書的世界観の継承」を聞いて

シオンキリスト蒲田教会 担任牧師 荻野泰弘

私たちが一般的に耳にするのは「信仰継承」という言葉ですが、小平先生がこうに仰るのは、阪神大震災での被災体験に基づくということでした。

阪神大震災で小平先生が牧会する西宮教会は被災し、周辺交通機関のマヒから、数ヶ月の間多くの信徒が教会に来会できない状況となりました。あとで分かったのは、礼拝に集えない状況の中である人々は共に集まる時を自主的に持っていたのですが、一部には、「教会がお休みになった」と、その間何かをすることなく過ごしていた人もいたということです。先生はご自身の牧会を省み、「自分はこの教会という一つの場所に、大勢の人を集めたかっただけではないか」と自問したといいます。以来、信仰者の内実に聖書的世界観が構築されることを目指して、「人を育てる」ことに力を注ぐようになったということでした。

時宜もあり、たいへん印象深いお証しでした。そして、Ⅱテモテ2：

2などを引用しつつ、聖書の人物に見る継承の事例を引きながら講演が進められました。そこでは「コミュニティーにおける生活の中で人は育ち、世界観は継承される」と言われ、小平家の様子や基督兄弟団の牧師子弟に対する取り組みも紹介されました。

真の継承は、時間をかけ、信頼関係を築き、その上での個と個の触れ合いが必要であることを教えられました。忙しさの中でただ走るばかりの毎日ですが、自身の取り組みが問われる貴重な時間でした。



第1回日本青年伝道会議を目指して

日本青年伝道会議開催趣意書

2009年9月に札幌で行われた第5回日本伝道会議の青年プロジェクトにおいて、青年宣教に関して集中して取り組む機会を設けて欲しいという声があがり、数年以内に日本青年伝道会議を開催するという志を全会一致で確認しました。このプロジェクトの思いを青年委員会が引き継ぎ、日本青年伝道会議の実現のための話し合いを積み重ねてきました。そのような過程を経て、以下の内容で日本青年伝道会議を開催することとなりました。

この会議は、第5回日本伝道会議の実としての働きであり、第6回日本伝道会議に繋がることを目指すものです。青年宣教の急務が叫ばれている今、福音派における青年宣教に特化した全国規模の会議を開催するに至ったことに、主の豊かな導きを覚えます。また、この会議開催の期間、夜には青年大会が行われ献身へのチャレンジがなされます。若い世代の中から、献身者が多く起こされることを願っています。

1. 概要

＜日程＞ 2012年9月17日（月・祝）～19日（水）

＊9月は、まだ、多くの大学生は夏休み中です。また、祝日を入れることを通して、社会人も部分参加であっても出やすいようにということでこの日程を設定。

＜会場＞ 東京近郊

＊原則として、宿泊の手配は事務局では行ないません。交通の便が良い所を考えています。

＜人数＞ 会議参加者500名（夜の青年大会は、700名）

＜テーマ＞ Reach the Young!
～分かち合おう、青年宣教の Vision ～

＜目的＞

- ① 青年宣教のビジョンを分かち合う
（青年宣教の具体的な方策も含めて）
- ② ネットワーク作りと具体的な協力の開始
（第6回日本伝道会議に繋がる働き）
- ③ 献身へのチャレンジ（青年大会）

＜対象＞

教職・宣教団体スタッフ・青年・信徒（高校生や学生が参加しやすい分科会も設ける。）大会の趣旨に賛同する JEA 以外の方の参加も可。

＜講師＞

○郷家一二三師（ホーリネス坂戸教会牧師、
ホーリネス教団委員長）

「聖書から見る青年宣教」⇒2回

○山口陽一師（東京キリスト神学校校長）

「歴史から見る日本の青年宣教」⇒1回

2. 予算 総収入) 500万円

参加費 200万円

（一般 5,000 円×350人、学生・神学生 2,500 円×100人、
高校生以下は無料）

集会献金 100万円（50万円×2）

支援献金 200万円（JEA 関係・各宣教団体、教会、個人等）

3. 組織・役割

主催：JEA 青年委員会

大会会長：JEA 理事長 安藤能成（同盟基督）

実行委員長：JEA 青年員会委員長 三橋与志哉（福音自由）

副実行委員長：田辺岩雄（イムヌエル）

プログラム局長：西村敬憲（同盟基督）

総務局長：内村義宣（アッセンブリーズ・オブ・ゴッド）

総務局：マックス・オーニング（JEMA）

荻野泰弘（シオン・キリスト）

財務：山崎龍一（KGK）

記録：和田治（日本イエス）

2011年6月
JEA 青年委員会

分科会「向き合おう性の現実、 伝えよう性の祝福」に参加して

東川口福音自由教会 牧師 松本民雄

教会の未来のために次世代を育成する、このことの第一歩を主が踏み出させてくださると期待して参加しました。日曜日の疲れが残る中でしたが、疲れを忘れさせるほどに充実した密度の濃いときでした。

私が参加した分科会は、「向き合おう性の現実、伝えよう性の祝福」です。水谷師が聖書から本質を語ってくださり、それを受けて分かち合いの中で学びを深めました。私が気づかされ考えさせられたことの一つは、教会の「知らせる」という責任です。異邦人社会日本において、教会だけが、聖さへの召しとそれに伴う祝福を示



すことができます。教会がこの責任を放棄するならば、若者たちは世と同じ価値観（世界観）を持ててしまいます。性的聖さという最高にインパクトのある証しを、教会は失うことになるのです。

セミナーでは新たな出会いや懐かしい再会がありました。その中で多くの気づきを与えられて、大いに刺激を受けました。受けた恵みを、私が牧会する教会の営みの中で具体化するには、時間が必要かもしれませんが、先ず私自身が、青年宣教に対して動機付けられて第一歩を踏み出せたように思います。素晴らしい機会を与えてくださった主に感謝しています。

(P.1 より続き)

東日本大震災救援のための支援金をささげてくださいました。会議の始まりから終わりまで出席されたお二人は、韓国と日本のキリスト教界の会議文化の違いについてもお話しをされ、とても興味深く傾聴させていただきました。また任期を満了された前理事長の原田憲夫氏と新理事長に選ばれた私にプレゼントをくださいました。紙上にて感謝を表明いたします。

この国における危機は東日本大震災だけではありません。大阪府議会でも可決した条例は

思想・信教の自由にたいする挑戦です。また相前後して出された裁判所の判決にも一つの流れを覚え危惧します。

主は私たちに今、何をなさせようとしておられるのでしょうか。そのことを祈り求めて行かなければなりません。このような時期に JEA 理事長として立てられたことに大きな責任を感じております。どうか新米理事長をお支えくださいますよう、お祈りとご協力をよろしくお願い申し上げます。

JEA 東日本大震災対策室通信 第 7 号

前回の報告 (JEA ニュース No.39 援助協力特別号) 以降の取り組みについて報告いたします。

(1) 見舞金などの分配について

- ・第一次支援として、加盟団体から報告された約 90 教会 (建物被害) に対して一律 8 万円、牧師家庭 5 万円をお届けしました。
- ・第二次支援として、上記被災教会に教会会計収入の落ち込みについて問い合わせ、支援の要請があった教会に対して毎月一定額を 2011 年 12 月までを目処に援助する計画です。
- ・第三次支援は、まだ少し先になると思いますが、教会建物修復・再建の計画ができてきた時点で、教団や他の諸団体からの支援も考慮の上、費用の一部を援助したいと願っています。

(2) 岩手、宮城、福島など各地域の教会ネットワークの支援を続けています。震災当初に比べて、働きが細分化してきているため、DRC ネット (東日本大震災救援キリスト者ネットワーク) などとも連携して、それぞれのニーズに合った支援ができるように協力していきます。

(3) クラッシュ・ジャパンへの奉仕者派遣は、ボランティア派遣に関わる部分については 9 月末までとし、それ以後は日本の諸教会との連携を助ける

リエゾン部門を支援していく予定です。

- (4) 海外の諸団体からの支援について、連絡、調整を行っています。これまでにワールド・リリーフ、WEA (世界福音同盟) などの代表者が日本を訪れました。WEA では、全世界の教会が日本のために祈る日を定めるよう計画しています。

引き続き、JEA 東日本大震災対策室の働きのためにお祈りとご協力をお願いいたします。



ワールド・リリーフから派遣されたフェアチャイルド氏 (右から2番目) と 3.11 いわて教会ネットワークの近藤愛哉先生を訪ねた

東日本大震災のための支援献金は以下の口座にお振り込みくださいますようお願いいたします。

●郵便振替： 00190-5-7790

加入者名：(JEA) 日本福音同盟援助協力委員会

※通信欄に「東日本大震災支援金献金」と明記してください。

●みずほ銀行：九段支店 532-1673098

加入者名：JEA 援助協力委員会

※みずほ銀行へ振り込まれる場合は、メールか FAX でお名前、住所、連絡先をお知らせください。

総務局報告

- ◆ 2011 年 7 月より、松下和弘氏と小野寺従道氏が総務局次長、石田敏則氏が総務アドバイザーとして奉仕してくださいました。また事務スタッフとして加藤知子姉が加わりました。どうぞよろしくお願いいたします。
- ◆ 2011 年 4 月より総務局のメールアドレスが hqoffice@jeanet.org から adminoffice@jeanet.org に変わっていますのでご注意ください。

★ JEA-net (<http://www.jeanet.org/>) を通じて世界・アジア・日本国内の教会の動向をお知らせしています。



日本福音同盟

心を一つにして福音の信仰のために力を合わせて戦い (ピリピ 1:27)

JEA ニュース 40 号 発行・日本福音同盟 (JEA)
発行者・安藤能成 編集者・品川謙一
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-10CC#615
TEL: 03-3295-1765 FAX: 03-3295-1933
E-mail: adminoffice@jeanet.org <http://www.jeanet.org/>